

# モモ「なつっこ」の品種特性

～さっぱりした甘さ、着色の良さで注目のモモ～

加藤周平（農業総合試験場環境基盤研究部生物工学研究室  
前・豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課）

【平成27年9月15日掲載】

## 【要約】

モモ「なつっこ」は長野県が育成した近年注目されている品種である。豊田市猿投地域における収穫期は、「白鳳」の収穫終盤以降の7月下旬から8月上旬であり、既存品種の「大和白桃」と同時期である。既存品種より糖度が高く、さっぱりした甘さと着色の良さが特徴である。使用する果実袋は、除袋の手間がなく省力的である一重袋（底なし）が適している。

## 1 はじめに

「なつっこ」は平成12年に長野県が登録した品種（「川中島白桃」×「あかつき」）で、近年注目を集めている。糖度が高い 反射マルチを敷設しなくても十分な着色が得られる 花粉があり人工授粉の必要がないことから、高品質で省力的な品種として徐々に栽培面積が増加している。

豊田市猿投地域では元々8月上旬に収穫される品種として「大和白桃」が導入されているが、着色が悪いという問題がある。そこで、「大和白桃」と同時期に収穫でき着色の良い品種として「なつっこ」の導入が検討されており、品種特性調査と、適切な果実袋の選定を行った。

## 2 品種特性

平成23年、豊田市猿投地域における「なつっこ」の品種特性について、同時期に収穫される「大和白桃」を対照として調査した。

収穫始めは「大和白桃」よりやや早く、「白鳳」の収穫終盤と重なる7月下旬であった（表1の概要参照）。モモの主要病害であるせん孔細菌病には「大和白桃」より強く、「白鳳」と同程度であった。樹勢は中程度で「白鳳」並みであった。

果実品質は「大和白桃」と比べて糖度が高く、着色程度が良く、果肉がやや硬めであった（写真1、表2）。また、核割れ果や高温障害果はほとんど見られなかった。食味調査では「大和白桃」と比べて「さっぱりした甘さ」「酸味が少ない」などの感想が多かった。

また課題として、果実表面に細かなひびが入る「果点荒れ」が生じやすいこと（写真2）、着色が先行するため収穫期の判断が難しいこと、が明らかになった。

表1 収穫時期の概要

7月		8月	
中旬	下旬	上旬	中旬
白鳳			
		なつっこ	
			大和白桃



写真1 上「なつっこ」果実、下「大和白桃」果実



写真2 果点荒れ（白くえぐれたような部分）

表2 「なつっこ」の果実品質

品種名	果実重 (g)	糖度 (Brix %)	着色程度	果肉硬度 (kg/cm <sup>2</sup> )
なつっこ	357	14.1	4.7	2.9
大和白桃(対照)	385	12.7	2.5	2.0

調査日：平成23年8月4日 「なつっこ」：4年生 「大和白桃」：約10年生 数値は10果の平均値。

着色程度：果実表面の赤色の着色割合 0（無）～5（全面）

果肉硬度：ユニバーサル型果実硬度計。針頭は半球型を使用。

### 3 モモ栽培における果実袋の利用について

モモの栽培では病虫害防除や果皮の着色のために、多くの品種で果実に袋をかける。モモの果実袋には大きく分けて一重袋と二重袋がある。一重袋は遮光率の低い素材の袋で、二重袋はその上から遮光率の高い袋で覆われ二重になっている。二重袋は遮光率が高いため果実に直射日光が当たらず果実表面がきれいに仕上がる。しかし、外側の遮光率の高い袋を被覆したままにしておくと、果実に日光が当たらないため赤く着色しない。そのため収穫のおよそ10日前に外側の袋を外す作業（除袋）が必要になり、除袋の必要がない一重袋と比べて労力を要する。産地では、果実の大きさや着色のしやすさなどによって品種ごとに果実袋を選定している。

### 4 「なつっこ」に適する果実袋の選定

「なつっこ」の特性として、果点荒れが生じやすいことが明らかになったことから、その解決のため平成24年に、4種類の果実袋の試験を行った（表3）。

果点荒れは が最も軽減され、 は同程度であった。しかし、 は除袋後の鳥害が甚大であったため、省力を考慮し除袋の手間がいらない 一重袋（底なし）を適した果実袋として選定した。その他の項目では果実袋の種類による大きな差は見られなかった（写真3、表4）。



写真3 一重袋（底なし）をかいた果実（果点荒れは軽度）

表3 果実袋の選定試験区

区名	袋の枚数	底の有無	備考
一重袋（底なし）	一重	無	産地で一般的に使用
一重袋（底あり）	一重	有	裾が長い
二重袋（底あり）	二重	有	外側の徐袋が必要
遮光性の一重袋（底あり）	一重	有	遮光性のため徐袋が必要

表4 「なつっこ」果実袋の果実品質への影響

果実袋	果実重 (g)	糖度 (Brix %)	着色程度	果肉硬度 (kg/cm <sup>2</sup> )	果点荒れ
一重袋（底なし）	305	13.0	3.5	3.33	2.5
一重袋（底あり）	324	13.6	4.0	3.04	2.7
二重袋（底あり）	283	14.5	4.5	2.93	2.7
遮光性の一重袋（底あり）	298	12.8	4.5	3.04	1.3

調査日：平成24年7月27年 「なつっこ」：5年生 数値は6果の平均値。

着色程度：果実表面の赤色の着色割合 0（無）～5（全面）。

果肉硬度：ユニバーサル型果実硬度計。針頭は半球型を使用。

果点荒れ：果実赤道より上部に占める、荒れの割合 0（無）～5（全面）。

## 5 今後の課題

平成24年（5年生）の果実袋試験では、一重袋（底なし）を適した果実袋として選定したが、平成26年（7年生）には一重袋（底なし）を利用しても果点荒れの程度がひどくなる傾向が見られた。樹齢が進むと一重袋（底なし）では果点荒れを抑えることができないと思われる。今後は、除袋の手間がかかる二重袋も含めて、再度果実袋の検討を行う必要がある。

また、「なつっこ」は着色が先行するため、収穫時期の判断が難しい。そのため、収穫適期の判断基準を確立する必要がある。